

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																			
(1) 食生活と健康	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中は栄養バランスのよい食事を心がけます。 ・毎日朝ごはんを摂ります。 ・食事の時間を家族で一緒に楽しめます。 ・料理講習会・食の研修会などへ積極的に参加します。 <p>【施策の方向】 妊娠期における食生活に関する学習機会や情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室や調理実習を通じて、妊娠期における正しい食生活を身につけ、母子の健康増進を図ります。（一部抜粋） 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成 20 年調査</th> <th>平成 24 年目標</th> <th>平成 24 年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①朝食を食べる人の割合</td> </tr> <tr> <td>幼児</td> <td>93.3%</td> <td>100%</td> <td>95.9%</td> <td>B 1</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>83.8%</td> <td>100%</td> <td>89.3%</td> <td>B 1</td> </tr> <tr> <td colspan="5">②こどもに合った食事内容を知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>81.6%</td> <td>90%以上</td> <td>81.1%</td> <td>B 2</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成 20 年調査	平成 24 年目標	平成 24 年調査		①朝食を食べる人の割合					幼児	93.3%	100%	95.9%	B 1	成人	83.8%	100%	89.3%	B 1	②こどもに合った食事内容を知っている人の割合					成人	81.6%	90%以上	81.1%	B 2		<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティークッキングは、参加人数は低迷しているが、実績を増やし更なる妊娠時期の健康教育の充実が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠時期の料理講習会などの参加人数が減少しているが、対象者のニーズが多様化してきていることから、各種媒体を使って情報提供していくことが必要です。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																			
目標	平成 20 年調査	平成 24 年目標	平成 24 年調査																																					
①朝食を食べる人の割合																																								
幼児	93.3%	100%	95.9%	B 1																																				
成人	83.8%	100%	89.3%	B 1																																				
②こどもに合った食事内容を知っている人の割合																																								
成人	81.6%	90%以上	81.1%	B 2																																				
	<p>【施策の方向】 こどもたちに食事づくり等の体験学習の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の大切さや楽しさへの理解を深め、一人ひとりが自立的に食生活を営む力を育てていきます。（一部抜粋） ・保育所のこどもや保護者にどのような支援が必要かを見直し、「保育所における食育に関する指針」を参考に、食育を進めていきます。 <p>【施策の方向】 こどもの食生活に関する学習機会や情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の必要性や目的・目標について共通認識を深めるとともに、乳幼児期において望ましい食習慣の基礎をつくるため、的確な情報提供・指導等により、母親の不安の軽減に努めます。（一部抜粋） ・幼稚園では弁当参観などの機会に保護者へ指導を行う等、野菜の栽培・収穫・試食等を通じて、幼児が食べ物への親しみや感謝の気持ちを育むよう食指導の充実を図ります。 ・小学校では低学年において、給食を通じて準備や後片付け等の協力、ともに食べる喜び、食物への関心を持つことなどを指導し、中学年や高学年には、食や栄養、生産等について知識として身につけ、行動することができるよう指導します。 ・全小学校で食育の指導計画を策定し、計画的に食育導を実施します。また、小学校5校の栄養教諭が中心となって、3学年の学級活動の時間を活用し、担任との連携により食育を行います。 ・中学校では保護者弁当になるため、自分でも弁当がつけられるような指導をします。 ・保育所や幼稚園や学校で食育にかかわる職員の資質向上を図るため、研修体制も充実します。 		<p>【健診時親子調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子さんに食事づくりの手伝い（食品の買い物や、調理の手伝い、後片付けなど）をさせているかについて、「毎日手伝わせている」と「時々手伝わせている」をあわせた“手伝わせている”の割合が85.8%となっています。 ・前回調査と比較すると、“手伝わせている”の割合が6.6ポイント増加しています。 ・あなたは普段朝食を食べますかについて、「毎日食べる」の割合が、90.5%となっており、約1割の親が欠食者となっています。 ・お子さんに適した食事量・内容を知っているかについて、「知っている」と「だいたい知っている」をあわせた“知っている”の割合が81.1%となっています。 ・前回調査と比較すると、「知っている」の割合が、0.5ポイント減少しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子の栄養相談が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労状況により家族揃って食事を摂る機会が減少し、家族団らんの時間や食事に対する楽しみなどが減少していることがうかがわれる中、食事づくりや共食を通して、家族の交流・食の知識・楽しさを伝えていく必要があります。 ・子育て世代の朝食の欠食者が多いことから、朝食をはじめとした食生活の大切さを保護者に伝えることが必要です。 ・就寝時刻や起床時刻が遅いと、朝食を欠食する頻度が高く、生活習慣が食生活に与える影響が大きいと考えられます。家族が子どもの早寝、早起きなどの生活リズムや健康づくりにつながる食生活の大切さを自覚し、知識や技術を高めることが必要です。 ・お子さんに適した食事量・内容を知っている親が減少していることから、今後も引き続き、子育て中の親を対象にした料理講習会や食に関する研修会や展示会などへの参加を促すことが必要です。 ・保育所や幼稚園、学校においては、給食や体験活動など、食育活動が行われており、今後も引き続き、多くの食環境を直接見て、聞いて、触れることにより食への関心を高め、豊かな心を育む必要があります。 																																			

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																																												
(2) 母子の健康の確保	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 母子健康手帳を活用し、妊娠中の健康管理を行います。 妊娠・出産に関する情報を積極的に入手し、知識を深めます。 夫婦や家族で出産や子育てについて話し合います。 地域のこどもの成長に関心を持ち、必要に応じて助け合います。 子ども同士の遊ぶ機会を増やします。 1人で悩まず、周りの人とコミュニケーションを大切にします。 <p>【施策の方向】</p> <p>健康診査及び健康教育・相談の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健センターを拠点として関係機関と連携を強化しながら、健康診査、健康相談等の母子保健事業をきめ細かく実施していきます。（一部抜粋） <p>育児不安を解消するための、健康相談・訪問指導等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て家庭が自信とゆとりを持って楽しく子育てができるよう、安心して相談や交流ができる場を提供します。（一部抜粋） 育児困難になりやすい家庭に対し養育支援ネットで病院と連携を持ちきめ細かい対応をします。（一部抜粋） 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①妊娠11週以下での妊娠届出者の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>70.2%</td> <td>80%以上</td> <td>91.7%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td colspan="5">②妊娠中の喫煙率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7.3%</td> <td>0%</td> <td>1.4%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="5">③妊娠中の飲酒率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14.9%</td> <td>0%</td> <td>4.2%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="5">④乳幼児健康診査の受診率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>92.6%</td> <td>95%以上</td> <td>94.6%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="5">⑤3歳児健康診査の結果、むし歯のない幼児の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>87.7%</td> <td>90%以上</td> <td>87.7%</td> <td>B2</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①妊娠11週以下での妊娠届出者の割合						70.2%	80%以上	91.7%	A	②妊娠中の喫煙率						7.3%	0%	1.4%	B1	③妊娠中の飲酒率						14.9%	0%	4.2%	B1	④乳幼児健康診査の受診率						92.6%	95%以上	94.6%	B1	⑤3歳児健康診査の結果、むし歯のない幼児の割合						87.7%	90%以上	87.7%	B2	—	<ul style="list-style-type: none"> 各種教室等の講義内容により参加者を集めることが難しいものもあるため、内容の見直しが必要。 未熟児訪問者数が増加しており、未熟児の出生の動態把握が必要。 関係機関と連携を図り、支援を必要とする家庭に迅速に対応するしくみと体制強化が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 親同士の交流の機会（つどいのひろば「むくむく」など）や各種教室等について、周知に努めるとともに、利用を促進していく事業内容の見直しが必要です。 子どもの発達段階に応じた子育てに関する正しい情報の提供と相談体制の充実が求められています。特に、特別な配慮が必要な子どもについては、関係機関と連携し、早期対応・早期療育につなげるなどの支援体制を強化していくことが必要です。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																												
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																																														
①妊娠11週以下での妊娠届出者の割合																																																																	
	70.2%	80%以上	91.7%	A																																																													
②妊娠中の喫煙率																																																																	
	7.3%	0%	1.4%	B1																																																													
③妊娠中の飲酒率																																																																	
	14.9%	0%	4.2%	B1																																																													
④乳幼児健康診査の受診率																																																																	
	92.6%	95%以上	94.6%	B1																																																													
⑤3歳児健康診査の結果、むし歯のない幼児の割合																																																																	
	87.7%	90%以上	87.7%	B2																																																													
(3) 子どものやすらかな発達の促進	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 母親に限らず、同年代などの話しやすい友だちとの関係を大切にします。 ストレスを感じたら息抜きやリフレッシュをします。 母親を孤立させないよう、母親同士の交流の場を設けます。 いつでも気軽に相談できる場所を知り、利用します。 専門的な窓口を利用し、悩みや不安の解消につなげます。 <p>【施策の方向】</p> <p>児童の虐待を防止する取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「芦屋市要保護児童対策地域協議会」を設置し、市が調整機関となり連絡調整を行っています。（一部抜粋） 虐待発生予防の視点で育児支援を行います。また、虐待やDVのケースとして地区保健師が保健指導などでフォローする際は、関係機関や関係者と連絡・調整を図りながら対応します。（一部抜粋） <p>乳幼児のフォローアップ体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診や相談などで発見された発達障がいなどところやからだに課題のある子どもとその母親など家族に対して適切な支援ができるよう相談・療育体制の充実を図っていきます。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①育児について相談相手のいる母親の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>99.2%</td> <td>100%</td> <td>93.7%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td colspan="5">②専門的な相談機関を知っている親の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>43.3%</td> <td>80%以上</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="5">③育児参加する父親の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>93.4%</td> <td>100%</td> <td>90.5%</td> <td>C</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①育児について相談相手のいる母親の割合						99.2%	100%	93.7%	C	②専門的な相談機関を知っている親の割合						43.3%	80%以上	—	—	③育児参加する父親の割合						93.4%	100%	90.5%	C	—	<ul style="list-style-type: none"> 1歳6か月児と3歳児の乳幼児健康診査の未受診者対策について見直しが必要。 一時保護・施設入所等へのタイミング、また退所後の家庭へのかわり方など、相談員のスキルの向上や地域での見守り体制の連携強化が求められる。 こどもの相談など、事業の内容・対象者やフォロー体制について見直しが必要。 療育支援相談、機能訓練事業等の新規事業及び、卒級後の支援者との円滑な連携が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の健康診査未受診者について、関係機関と連携をとりながら未把握児を減らしていく必要があります。 乳幼児健診において、育児について相談相手のいる母親の割合が減少していることから、既存相談窓口の周知・利用促進を図る必要があります。 虐待防止・早期発見のため、子育てに不安を感じている母親への援助活動が求められています。 社会全体で子どもを虐待から保護するため、関係機関の連携を強化するとともに地域住民も一体となった支援体制の推進が必要です。 																				
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																												
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																																														
①育児について相談相手のいる母親の割合																																																																	
	99.2%	100%	93.7%	C																																																													
②専門的な相談機関を知っている親の割合																																																																	
	43.3%	80%以上	—	—																																																													
③育児参加する父親の割合																																																																	
	93.4%	100%	90.5%	C																																																													

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																																																																																																						
(4) 思春期保健対策の充実	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みを打ち明けられる友だちをつくります。 ・親子で一緒にいる時間を増やし、会話の時間を増やします。 ・未成年者には、飲酒や喫煙を勧めません。また、見かけたら注意します。 ・子どもが自分のからだを大切にしよう、普段から話をしてこどもの話を聞き、受け止めるようにします。 <p>【施策の方向】</p> <p>性に関する正しい知識の普及や相談などの取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの講座の開催や幼児期からの性教育の実施等、発達段階に即した性教育の内容・対象・回数などを検討し、体系だった性教育の確立を図ります。（一部抜粋） <p>喫煙や薬物などに関する教育や指導などの取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の連携のもと学童期から喫煙防止教育をはじめ、教育体制の充実を図ります。（一部抜粋） <p>学童期・思春期におけるこころの問題への取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの問題に対して気軽に相談できる体制を確立します。また、思春期保健ネットワークによる思春期保健対策を推進し、思春期保健関係者との連携を図ります。（一部抜粋） 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6">①10代の喫煙率</td> </tr> <tr> <td>中学1年生 男子</td> <td>3.2%</td> <td>0%</td> <td>1.5%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>2.4%</td> <td>0%</td> <td>1.1%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>高校3年生 男子</td> <td>21.7%</td> <td>0%</td> <td>12.8%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>9.7%</td> <td>0%</td> <td>5.3%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="6">②薬物乱用の有害性について正確に知っている小学生の割合</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>小学6年生 男子</td> <td>53.3%</td> <td>100%</td> <td>70.9%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>女子</td> <td>56.2%</td> <td>100%</td> <td>77.1%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>依存症</td> <td>小学6年生 男子</td> <td>73.1%</td> <td>100%</td> <td>87.1%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>女子</td> <td>78.0%</td> <td>100%</td> <td>91.2%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="6">③性感染症を正確に知っている高校生の割合</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">性器クラミジア感染症</td> <td>男子</td> <td>48.4%</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>55.8%</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">淋菌感染症</td> <td>男子</td> <td>19.9%</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>20.1%</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="6">④避妊法を正確に知っている高校生の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>男子</td> <td>12.5%</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>女子</td> <td>22.7%</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査			①10代の喫煙率						中学1年生 男子	3.2%	0%	1.5%		B1	女子	2.4%	0%	1.1%		B1	高校3年生 男子	21.7%	0%	12.8%		B1	女子	9.7%	0%	5.3%		B1	②薬物乱用の有害性について正確に知っている小学生の割合						急性中毒	小学6年生 男子	53.3%	100%	70.9%	B1		女子	56.2%	100%	77.1%	B1	依存症	小学6年生 男子	73.1%	100%	87.1%	B1		女子	78.0%	100%	91.2%	B1	③性感染症を正確に知っている高校生の割合						性器クラミジア感染症	男子	48.4%	100%	—	—	女子	55.8%	100%	—	—	淋菌感染症	男子	19.9%	100%	—	—	女子	20.1%	100%	—	—	④避妊法を正確に知っている高校生の割合							男子	12.5%	100%	—	—		女子	22.7%	100%	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年4月から受動喫煙防止条例の本格実施にむけて、防煙教育を実施する必要がある。 ・若年層の薬物乱用者が増加していることから、それらに対する啓発活動を強化することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や子どもに対して、性に関する正しい知識を普及するとともに、親子でそれらについて話し合うことの重要性を伝えていく必要があります。 ・学校、地域、家庭の連携により、10代の飲酒、喫煙率の減少、薬物乱用の防止に努める必要があります。 ・不登校を含め、子どもたちの心と体の健康を守るために、学校や関係機関と連携しながら、健全な青少年の育成を図る必要があります。
				現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																																																																																				
		目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																																																																																																						
		①10代の喫煙率																																																																																																																									
		中学1年生 男子	3.2%	0%	1.5%		B1																																																																																																																				
		女子	2.4%	0%	1.1%		B1																																																																																																																				
		高校3年生 男子	21.7%	0%	12.8%		B1																																																																																																																				
		女子	9.7%	0%	5.3%		B1																																																																																																																				
		②薬物乱用の有害性について正確に知っている小学生の割合																																																																																																																									
		急性中毒	小学6年生 男子	53.3%	100%	70.9%	B1																																																																																																																				
	女子	56.2%	100%	77.1%	B1																																																																																																																						
依存症	小学6年生 男子	73.1%	100%	87.1%	B1																																																																																																																						
	女子	78.0%	100%	91.2%	B1																																																																																																																						
③性感染症を正確に知っている高校生の割合																																																																																																																											
性器クラミジア感染症	男子	48.4%	100%	—	—																																																																																																																						
	女子	55.8%	100%	—	—																																																																																																																						
淋菌感染症	男子	19.9%	100%	—	—																																																																																																																						
	女子	20.1%	100%	—	—																																																																																																																						
④避妊法を正確に知っている高校生の割合																																																																																																																											
	男子	12.5%	100%	—	—																																																																																																																						
	女子	22.7%	100%	—	—																																																																																																																						

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																																																														
(5) 小児医療の充実	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種を受けます。 ・普段からこどもの健康状態を把握します。 ・こどもの病気やケガについて、家庭で正しい手当の方法を身につけます。 ・こどもの目線で整理整頓します。 ・病気やけがのとき阪神南圏域小児救急電話相談を利用します。 <p>【施策の方向】</p> <p>感染症の予防及び事故防止のための取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種の実施については、市民の利便性等を考慮しながら進めていくとともに、未接種者等に対し啓発等が速やかにできるシステムの構築を図ります。 ・乳幼児期の事故の大部分は、周囲の配慮・環境整備により防ぐことができることから、事故防止のリーフレットの配布や心肺蘇生等に関する知識の普及・啓発に努めます。 <p>小児救急医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児救急医療の充実について、県に働きかけるとともに、近隣市との協力体制を強化し、広域的な小児救急体制の充実に努めます。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6">①事故対策を行っている家庭の割合</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月</td> <td>80.5%</td> <td>100%</td> <td>81.0%</td> <td></td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>74.7%</td> <td>100%</td> <td>78.1%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="6">②かかりつけの小児科を持つ親の割合</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月</td> <td>86.3%</td> <td>100%</td> <td>83.8%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>86.4%</td> <td>100%</td> <td>84.6%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td colspan="6">③休日・夜間の小児救急医療機関を知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月</td> <td>87.8%</td> <td>100%</td> <td>84.2%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>89.9%</td> <td>100%</td> <td>85.3%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td colspan="6">④6か月までにBCG接種を済ませている親の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>93.4%</td> <td>100%</td> <td>93.7%</td> <td></td> <td>B2</td> </tr> </tbody> </table>			現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査			①事故対策を行っている家庭の割合						1歳6か月	80.5%	100%	81.0%		B2	3歳児	74.7%	100%	78.1%		B1	②かかりつけの小児科を持つ親の割合						1歳6か月	86.3%	100%	83.8%		C	3歳児	86.4%	100%	84.6%		C	③休日・夜間の小児救急医療機関を知っている人の割合						1歳6か月	87.8%	100%	84.2%		C	3歳児	89.9%	100%	85.3%		C	④6か月までにBCG接種を済ませている親の割合							93.4%	100%	93.7%		B2	—	<ul style="list-style-type: none"> ・定期予防接種について、未接種者の把握が行えていないので、対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康状態は急変しやすいため、小児救急医療体制の維持が必要です。 ・保護者に対し救急医療に関する知識の普及、情報の提供を図る必要があります。 ・乳幼児の事故防止についての普及啓発を図っていく必要があります。
				現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																																												
		目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																																																														
		①事故対策を行っている家庭の割合																																																																																	
		1歳6か月	80.5%	100%	81.0%		B2																																																																												
		3歳児	74.7%	100%	78.1%		B1																																																																												
		②かかりつけの小児科を持つ親の割合																																																																																	
		1歳6か月	86.3%	100%	83.8%		C																																																																												
		3歳児	86.4%	100%	84.6%		C																																																																												
		③休日・夜間の小児救急医療機関を知っている人の割合																																																																																	
1歳6か月	87.8%	100%	84.2%		C																																																																														
3歳児	89.9%	100%	85.3%		C																																																																														
④6か月までにBCG接種を済ませている親の割合																																																																																			
	93.4%	100%	93.7%		B2																																																																														

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																													
<p>(6) 健康を維持する正しい食習慣の確立と実践</p>	<p>【家庭や地域の取り組み】 青年・壮年・高年期共通の取り組み ・塩分を控え、薄味を心がけます。 ・間食や夜食を控え、規則正しい食習慣を心がけます。 ・野菜を多く摂るよう心がけます。 ・一日にきちんと3度の食事をとります。 ・家族や仲間と楽しく食事をします。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th colspan="2">本調査の結果</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①野菜の1日の摂取量を知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>38.4%</td> <td>50%以上</td> <td>34.5%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td colspan="5">②朝食を食べる人の割合</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>83.8%</td> <td>100%</td> <td>89.3%</td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table>	現行計画書掲載値		本調査の結果		評価	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①野菜の1日の摂取量を知っている人の割合						38.4%	50%以上	34.5%	C	②朝食を食べる人の割合					成人	83.8%	100%	89.3%	B1	<ul style="list-style-type: none"> 食生活で気になっていることは、「栄養バランスの偏り」の割合が35.0%と最も高く、次いで「野菜不足」の割合が32.8%、「食べ過ぎ」の割合が29.1%となっています。 性・年代別でみると、男性では、年代が下がるほど「不規則な食事時間」の割合が高くなる傾向がみられます。 今後、健康増進のために食生活をどのようにしたいと思うかについて、「いまより改善したい」の割合が51.1%と最も高くなっています。 自分に適した食事内容や量を考えた食事ができているかについて、「はい」の割合が51.8%、「いいえ」の割合が20.8%、「わからない」の割合が25.7%となっています。 性・年代別でみると、他に比べ、男性の20歳代、50歳代、女性の20歳代、40歳代で「いいえ」の割合が高く、3割を超えています。 1日に2回以上、主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることは、週に何日あるかについて、「毎日食べる」の割合が50.9%と最も高く、次いで「週4～6日は食べる」の割合が27.1%、「週2～3日は食べる」の割合が16.7%となっています。 性・年代別でみると、男女ともに年代が下がるほど「毎日食べる」の割合が低くなる傾向がみられます。 野菜を一日に350g（両手山盛り一杯）以上食べているかについて、「時々食べている」の割合が48.0%と最も高く、次いで「ほぼ毎日食べている」の割合が34.5%、「ほとんど食べていない」の割合が16.9%となっています。 性・年代別でみると、女性の70歳以上を除き、男女ともに年代が下がるほど「ほぼ毎日食べている」の割合が低くなる傾向がみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 思春期や働き盛り（壮年期）の料理教室など対象事業が少ないため、対策が必要。 無関心層へのPRが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 20歳代を中心とした若年者において朝食の欠食が多くなっており、その背景として不規則な生活習慣がうかがわれます。朝食を摂取するための生活リズムの改善を支援する必要があります。 20歳代、30歳代の男女に食事の問題を抱えている人の割合が高いことから、次代のこどもたちの食生活にも影響を与える可能性があります。栄養バランスを考えて食を選び、適正な量の栄養を摂取できるように支援する必要があります。 生活習慣を見直すことを目的とした各種教室・情報提供等の参加者が減少傾向にあることから、参加しやすい実施方法を検討する必要があります。 壮年期は脂質異常や糖代謝異常、高血圧など生活習慣病が増加してくる年代なので、この先さらに重篤な疾病に移行しないように、正しい食習慣の実践が必要です。 一人暮らし高齢者が増えていることから孤食になる高齢者が増えています。孤食からくる栄養の偏りがなく、バランスのとれた食事についての情報提供等の支援が必要です。 高齢者の身体機能を維持する観点から、高齢者の低栄養状態を予防あるいは改善する必要があります。
	現行計画書掲載値		本調査の結果		評価																													
平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																
①野菜の1日の摂取量を知っている人の割合																																		
	38.4%	50%以上	34.5%	C																														
②朝食を食べる人の割合																																		
成人	83.8%	100%	89.3%	B1																														
<p>【施策の方向】 朝食摂取の重要性の普及・啓発 ・20歳代の男性に朝食をとっている人が減少しているため、食生活の基本が形成される大切な時期である乳幼児の親に対して、朝食の重要性について普及・啓発を行う必要があります。</p>	<p>脂質異常 糖代謝異常 高血圧</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を食べているかについて、「毎日食べる」の割合が89.3%と最も高くなっています。一方、「週4～6日は食べる」と「週2～3日は食べる」と「まったく食べない」をあわせた“朝食欠食者”の割合は10.2%となっています。 前回調査と比較すると、「毎日食べる」の割合が5.5ポイント増加しています。 性・年代別でみると、男性の20歳代～40歳代で「まったく食べない」の割合が高く、1割を超えています。 		<ul style="list-style-type: none"> 朝食を食べる人の割合は、策定当初値の現状値を上回っているものの、目標達成に至っておらず、働き盛りの20歳代の男女を中心に、朝食の欠食者が高くなっています。朝食の欠食率を下げる取り組みが必要です。 																														

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																							
<p>(7) 運動習慣の確立と実践</p>	<p>【家庭や地域の取り組み】 青年・壮年期の取り組み ・スポーツ行事等に積極的に参加します。 ・地域やNPOが実施する運動サークル等に積極的に参加します。 ・楽しめる運動を見つけて、定期的に行います。 ・車の代わりに、なるべく自転車を利用したり、歩いたりします。 ・家事に積極的に取り組み、こまめにからだを動かします。 高年期の取り組み ・自分に合った運動方法を見つけます。 ・ストレッチ運動等、気軽にできる運動に取り組みます。 ・地域で呼びかけ合い、ウォーキングやストレッチ体操等を行います。</p> <p>【施策の方向】 健康づくりにおける運動効果の普及・啓発 ・健康相談や健康教育などを通じて普及・啓発をしていく必要があります。</p> <p>誰でも気軽に自分に合った運動習慣が身につくきっかけづくり ・体操などの運動メニューを紹介します。また、市内のウォーキングマップなどを作成し情報提供していく必要があります。</p> <p>運動機会の充実 ・運動に関する教室の開催やスポーツクラブ21 ひょうごへの支援、運動施設の整備など運動の機会を充実します。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標</th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①週3回以上の運動を行っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>成人男性</td> <td>33.4%</td> <td>50%以上</td> <td>35.2%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>成人女性</td> <td>24.7%</td> <td>50%以上</td> <td>28.2%</td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table>	目標	現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査	①週3回以上の運動を行っている人の割合					成人男性	33.4%	50%以上	35.2%	B1	成人女性	24.7%	50%以上	28.2%	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・運動（1日に1回30分以上のウォーキング、ジョギング、ゲートボール、体操など）の実施頻度は、「週に3回以上」の割合が31.0%と最も高く、次いで「まったくしない」の割合が26.0%、「週に1～2回」の割合が25.8%となっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、男性の60歳代以上で「週に3回以上」の割合が高く、4割を超えています。また、男性の40歳代で「月に2～3回」の割合が高くなっています。一方、女性の30歳代で「まったくしない」の割合が高く、約4割となっています。 ・運動をしない理由は、「時間がない」の割合が25.4%と最も高く、次いで「面倒くさい」の割合が14.8%となっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、男性の40歳代、女性の20歳代、30歳代で「時間がない」の割合が高く、5割を超えています。 ・仕事以外で何か地域の活動に参加しているかについて、「参加したことがない」の割合が53.8%と最も高く、次いで「過去に参加したことがある」の割合が27.0%、「現在参加している」の割合が17.6%となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングの普及・啓発について、初心者、無関心層へのアプローチができていない。 ・地域との連携・協働事業（エンジョイスports教室）において、地域力が弱くなっている。健康課（保健専門家）とスポーツ・青少年課（スポーツ専門家）との連携・協働が必要。 ・スポーツの多様化には対応してきたが、介護予防などへの軽スポーツ紹介が必要。自治会、老人会との連携・協働が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外で遊ぶことや運動する機会が減ってきていることから、子どもたちの体力不足がうかがわれます。運動の好き嫌いに関係なく、適度な運動を通して、体力づくりをするための周囲の支援や理解が必要であるとともに、体を動かす楽しさを体験できるよう支援する必要があります。 ・コミュニティ・スクールやスポーツクラブ21ひょうごなど、地域における運動機会が充実してきていることから、運動週間者が増加していることがうかがわれます。 ・週3回以上の運動を行っている人の割合は、策定当初値と比べ、増加しているものの、男女ともに30歳代、40歳代が定期的に運動をできておらず、目標を下回っています。働く世代に、運動への取り組みを促進していく必要があります。 ・子育て世代は、自らの生活習慣を改善するとともに、親子のふれあい・遊びを通して、子どもの運動、感覚機能を養うことが必要です。 ・運動習慣のない人の理由に、「時間がない」や「面倒くさい」と回答している人が多いことから、運動が実践できるきっかけとともに、運動を習慣として身につける環境を整えることが必要です。 ・いつでも、どこでも、誰でも、運動にふれる機会が確保できるよう、地域と連携した環境づくりを行う必要があります。 ・加齢とともに、身体機能・生活機能の低下が起こりやすい年代について、日常生活のなかで意識的に体を動かすことができるよう啓発するとともに、閉じこもり予防として、積極的に地域活動の参加を促すことが必要です。 ・高齢については、男女ともに日ごろから体を動かしていることが多いことから、引き続き、介護予防の視点も踏まえ、身体活動や運動を促す支援が必要です。 ・生活習慣病の予防だけでなく生活機能の低下を早期に発見し、対処することが必要です。
目標	現行計画書掲載値			本調査の結果	評価																							
	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																									
①週3回以上の運動を行っている人の割合																												
成人男性	33.4%	50%以上	35.2%	B1																								
成人女性	24.7%	50%以上	28.2%	B1																								

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																									
(8) 1113の健康と安心の確保	<p>【家庭や地域の取り組み】 青年・壮年期の取り組み ・十分に睡眠をとり、心身を休めます。 ・ストレスやこころの健康に関する正しい知識を身につけます。 ・趣味・スポーツ等、自分に合ったストレス解消法を身につけます。 ・職場や地域において、悩みを相談できる仲間をつくります。</p> <p>高年期の取り組み ・家族や仲間との会話を楽めます。 ・生きがいを持った生活ができるよう、地域活動等に積極的に参加します。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①睡眠による休養を十分にとれていない人の割合</td> <td>19.7%</td> <td>15%以下</td> <td>20.1%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>②ストレスを感じたときの相談相手がいる人の割合</td> <td>92.5%</td> <td>100%</td> <td>93.7%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>③ストレス解消法を持っている人の割合</td> <td>88.5%</td> <td>100%</td> <td>92.5%</td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	19.7%	15%以下	20.1%	C	②ストレスを感じたときの相談相手がいる人の割合	92.5%	100%	93.7%	B1	③ストレス解消法を持っている人の割合	88.5%	100%	92.5%	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスや悩みなどにうまく対処できているかについては、「どちらかというのできていない」と「できていない」をあわせた“対処できていない人”の割合が19.4%となっています。 ・性・年代別でみると、女性の30歳代で“対処できていない人”の割合が高く、3割を超えています。 ・自分でストレスを解消するについては、「趣味や好きなことをする」の割合が54.7%と最も高くなっています。 ・性・年代別でみると、男性の40歳代～60歳代で「よくお酒を飲む」の割合が高く、3割を超えています。男性の60歳代以上で「散歩や運動をする」の割合が高くなっています。男性の30歳代、女性の20歳代～40歳代で「好きなものを食べる」の割合が高く、4割を超えています。 ・悩んだりストレスを抱えた時に、身近でだれに相談するかについては、「配偶者」の割合が50.5%と最も高く、次いで「友達」の割合が43.6%、「子ども」の割合が21.4%となっています。 ・精神的ストレス、悩みで困った時の相談先として、あなたが知っているものについては、「わからない」の割合が34.3%と最も高くなっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、女性の30歳代で「保健センター」の割合が高く、3割を超えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談数の減少については、地域の医療機関や地域関係機関との連携を強化していく必要がある。 ・相談支援事業所でも相談事業を実施しており、住民が選んで相談できるようになっている。相談支援事業所との連携及び他の関係機関との連携を強化していく必要がある。 ・発達に遅れの見られる子どもの母親に、こころの健康問題を持った方が多い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みで困った時の相談先として、「わからない」と回答している人が多いことから、専門機関による既存の相談窓口を周知する必要があります。 ・全国的に、自殺者の増加が社会問題になっており、今後も引き続き、自殺予防対策に取り組む必要があります。 ・男性の40歳代～60歳代で「よくお酒を飲む」でストレスを解消している人が多いことから、多量飲酒により肝臓機能障がい等、健康を害することも十分考えられます。自分に合ったストレス発散法を見つけることが重要です。 ・ストレスを感じたときの相談相手がいる人の割合や、ストレス解消法を持っている人の割合は、ともに増加しているものの、目標達成に向け、ライフステージに応じたこころの健康づくりを支援するために必要な情報提供、相談を実施する必要があります。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																									
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																											
①睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	19.7%	15%以下	20.1%	C																										
②ストレスを感じたときの相談相手がいる人の割合	92.5%	100%	93.7%	B1																										
③ストレス解消法を持っている人の割合	88.5%	100%	92.5%	B1																										
<p>【施策の方向】 休養に関する知識の普及・啓発 ・質のよい睡眠や休養をとるための、正しい知識の普及・啓発を図ります。 ・睡眠時無呼吸症候群等について理解している人を増やす方策や、専門の医療機関を紹介する事も重要です。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・1日の平均睡眠時間は、「6時間」の割合が34.3%と最も高く、次いで「7時間」の割合が29.1%、「8時間」の割合が14.6%となっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、男性の30歳代～50歳代、女性の40歳代、50歳代で「6時間」の割合が高く、4割を超えています。 ・普段の睡眠で休養が十分とれているかについては、「十分とれている」と「まあまあとれている」をあわせた“睡眠がとれている人”の割合が79.3%、「あまりとれていない」と「まったくとれていない」をあわせた“睡眠がとれていない人”の割合が20.1%となっています。 ・性・年代別でみると、男性の20歳代、40歳代、女性の20歳代、30歳代で「あまりとれていない」の割合が高く、3割を超えています。 		<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠による休養を十分にとれていない人の割合は、策定当初値から比べ、増加しています。一方、男性の20歳代、40歳代、女性の20歳代、30歳代で「あまりとれていない」の割合が高いことから、ストレス解消のための睡眠が十分とれていない状況が続いていると考えられます。ストレス解消のためにも、質のよい睡眠や休養のとり方について情報提供していく必要があります。 																										

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																																																																																																		
(9) 禁煙と適正飲酒の推進	<p>【家庭や地域の取り組み】 青年・壮年期、高年期に共通する取り組み ・喫煙者は、周囲の人に迷惑をかけない気づかいをし、喫煙マナーを守ります。 ・喫煙がからだに及ぼす影響について学びます。 ・歩きタバコやポイ捨てはやめます。 ・公共の場やレストランなどにおける禁煙を進めます。 ・適量を守り、楽しくお酒を飲むよう心がけます。 ・お酒がからだに及ぼす影響について学びます。 ・週2日は休肝日とします。 ・飲めない人には、無理にお酒を勧めないようにします。</p> <p>【施策の方向】 喫煙が及ぼす健康影響の啓発 ・喫煙が及ぼす健康影響について、健診や健康相談時にタバコの害についてのパンフレットを配布するなど、十分な知識の普及・啓発を行います。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6">①タバコを吸っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>成人男性</td> <td>25.0%</td> <td>20%以下</td> <td>19.8%</td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>成人女性</td> <td>7.0%</td> <td>5%以下</td> <td>3.8%</td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td colspan="6">②副流煙が及ぼす健康への影響を知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>84.0%</td> <td>100%</td> <td>82.4%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td colspan="6">③喫煙が及ぼす健康への影響について知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>94.8%</td> <td>100%</td> <td>95.3%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>ぜんそく</td> <td>64.6%</td> <td>100%</td> <td>63.9%</td> <td></td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>気管支炎</td> <td>72.2%</td> <td>100%</td> <td>66.5%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>心臓病</td> <td>47.6%</td> <td>100%</td> <td>40.1%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>38.0%</td> <td>100%</td> <td>37.1%</td> <td></td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>胃潰瘍</td> <td>18.8%</td> <td>100%</td> <td>18.0%</td> <td></td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>妊娠に関する異常</td> <td>61.6%</td> <td>100%</td> <td>56.5%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>歯周病</td> <td>21.7%</td> <td>100%</td> <td>26.3%</td> <td></td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td colspan="6">④多量に飲酒する人の割合</td> </tr> <tr> <td>成人男性</td> <td>3.6%</td> <td>2.6%以下</td> <td>3.9%</td> <td></td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>成人女性</td> <td>1.2%</td> <td>0.2%以下</td> <td>1.0%</td> <td></td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table>			現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査			①タバコを吸っている人の割合						成人男性	25.0%	20%以下	19.8%		A	成人女性	7.0%	5%以下	3.8%		A	②副流煙が及ぼす健康への影響を知っている人の割合							84.0%	100%	82.4%		C	③喫煙が及ぼす健康への影響について知っている人の割合						肺がん	94.8%	100%	95.3%		B1	ぜんそく	64.6%	100%	63.9%		B2	気管支炎	72.2%	100%	66.5%		C	心臓病	47.6%	100%	40.1%		C	脳卒中	38.0%	100%	37.1%		B2	胃潰瘍	18.8%	100%	18.0%		B2	妊娠に関する異常	61.6%	100%	56.5%		C	歯周病	21.7%	100%	26.3%		B2	④多量に飲酒する人の割合						成人男性	3.6%	2.6%以下	3.9%		C	成人女性	1.2%	0.2%以下	1.0%		B1	<ul style="list-style-type: none"> ・タバコの喫煙状況は、「以前から吸っていない」の割合が65.4%と最も高く、次いで「以前は吸っていたが今は吸っていない」の割合が23.1%、「吸っている」の割合が10.0%となっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、男性の20歳代、40歳代、50歳代、60歳代で「吸っている」の割合が高く、2割を超えています。 ・喫煙者の一日に吸うタバコの量（本数）は、「10～20本未満」の割合が42.2%と最も高く、次いで「20～30本未満」の割合が30.4%、「5～10本未満」の割合が11.1%となっています。 ・タバコをやめたいと思ったことはあるかについては、「やめたい」の割合が29.6%と最も高く、次いで「今のままでよい」の割合が28.9%、「やめたくないが本数を減らしたい」の割合が27.4%となっています。 ・「副流煙」が及ぼす健康影響について、「知っている」の割合が82.4%、「知らない」の割合が13.1%となっています。 ・喫煙が影響する疾患について、「肺がん」の割合が95.3%と最も高く、次いで「気管支炎」の割合が66.5%、「ぜんそく」の割合が63.9%となっています。 ・喫煙状況別でみると、他に比べ、吸っている人で、健康への影響について「心臓病」「脳卒中」「歯周病」「喉頭がん」の割合が高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙希望者に向けて、健診時などにおいて普及啓発の機会を増やすことが必要。 ・街頭キャンペーンやマナー指導員の巡回により、市民だけでなく、市外のかたにも喫煙マナーの啓発を行っているが、なかなか浸透していないため、効果的な啓発の方法について工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タバコを吸っている人の割合は、男女ともに、策定当初値と比べ、減少しており、目標を達成しています。 ・喫煙者でタバコをやめたいと思っている人が3割いることから、禁煙希望者が参加しやすい禁煙教室を開催し、禁煙支援プログラムを普及・実践するとともに、医師会や薬剤師会との連携により、禁煙支援を推進することが必要です。 ・喫煙がからだに及ぼす影響について、各種疾病に対し目標指標を設定していたものの、全体的に改善がみられていません。今後も引き続き、十分な知識が得られるよう、健診時等を通じタバコの害等のパンフレットを配布するなど普及・啓発することが必要です。
			現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																																																																																	
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																																																																																																				
①タバコを吸っている人の割合																																																																																																																							
成人男性	25.0%	20%以下	19.8%		A																																																																																																																		
成人女性	7.0%	5%以下	3.8%		A																																																																																																																		
②副流煙が及ぼす健康への影響を知っている人の割合																																																																																																																							
	84.0%	100%	82.4%		C																																																																																																																		
③喫煙が及ぼす健康への影響について知っている人の割合																																																																																																																							
肺がん	94.8%	100%	95.3%		B1																																																																																																																		
ぜんそく	64.6%	100%	63.9%		B2																																																																																																																		
気管支炎	72.2%	100%	66.5%		C																																																																																																																		
心臓病	47.6%	100%	40.1%		C																																																																																																																		
脳卒中	38.0%	100%	37.1%		B2																																																																																																																		
胃潰瘍	18.8%	100%	18.0%		B2																																																																																																																		
妊娠に関する異常	61.6%	100%	56.5%		C																																																																																																																		
歯周病	21.7%	100%	26.3%		B2																																																																																																																		
④多量に飲酒する人の割合																																																																																																																							
成人男性	3.6%	2.6%以下	3.9%		C																																																																																																																		
成人女性	1.2%	0.2%以下	1.0%		B1																																																																																																																		
			<ul style="list-style-type: none"> ・酒やビールなどのアルコール類の飲酒の頻度は、「飲まない、飲めない」の割合が28.3%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」の割合が21.5%、「毎日飲む」の割合が17.2%となっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、男性で年代が下がるほど飲む頻度が少なくなる傾向がみられます。 ・飲酒者で1回に飲むお酒の量は、日本酒に換算して「1合以下」の割合が53.6%と最も高く、次いで「1～2合以下」の割合が27.9%、「2～4合以下」の割合が14.5%となっています。 ・性・年代別でみると、他に比べ、男性の60歳代で「1～2合以下」の割合が高く、4割を超えています。一方、女性に比べ、女性の40歳代以上で「1合以下」の割合が高く、7割を超えています。 ・自分でストレスを解消するためにしていることについて、男性の40歳代～60歳代で「よくお酒を飲む」の割合が高く、3割を超えています。 		<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールは、適量であれば心身をリラックスさせ、健康にも良いといわれているものの、多量飲酒者が成人男性において若干増加していることから、飲酒量をしっかりと自己管理できるよう、アルコールがからだに与える影響について教育や啓発を行うことが重要となります。 ・すべてのライフステージにおいて、節度ある適度な飲酒の理解とその実践に向けた周囲への働きかけや環境づくりが必要です。 																																																																																																																		

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																																																					
(10) 健康管理の支援	<p>【家庭や地域の取り組み】 青年・壮年期、高年期に共通する取り組み ・定期的に健診やがん検診を受けます。 ・健診後は積極的に自己ケアに努めます。 ・食後や寝る前の歯みがきや歯間ブラシを使用する習慣をつけます。 ・定期的な歯科健診を受けます。</p> <p>【施策の方向】 適正体重の維持についての普及・啓発 ・自分の適正体重を知った上で、定期的な体重管理を実践するよう、普及・啓発を図ります。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①適正体重を維持している人の割合</td> <td>69.6%</td> <td>75%以上</td> <td>72.3%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>②毎年健康診査・定期健康診断を受けている人の割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人男性</td> <td>60.9%</td> <td>75%以上</td> <td>64.4%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>成人女性</td> <td>44.2%</td> <td>75%以上</td> <td>51.7%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>③特定健康診査・特定保健指導を知っている人の割合</td> <td>51.4%</td> <td>80%以上</td> <td>61.2%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>④がん検診を受けている人の割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>28.5%</td> <td>50%以上</td> <td>39.3%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>⑤60歳代で24本以上自分の歯を有する人の割合</td> <td>44.3%</td> <td>50%以上</td> <td>44.5%</td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>⑥定期的な歯科健診を受診する人の割合</td> <td>44.8%</td> <td>60%以上</td> <td>49.9%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>⑦歯間部清掃用具を使用する人の割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>40歳代</td> <td>24.3%</td> <td>50%以上</td> <td>22.3%</td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>50歳代</td> <td>24.9%</td> <td>50%以上</td> <td>36.0%</td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①適正体重を維持している人の割合	69.6%	75%以上	72.3%	B1	②毎年健康診査・定期健康診断を受けている人の割合					成人男性	60.9%	75%以上	64.4%	B1	成人女性	44.2%	75%以上	51.7%	B1	③特定健康診査・特定保健指導を知っている人の割合	51.4%	80%以上	61.2%	B1	④がん検診を受けている人の割合						28.5%	50%以上	39.3%	B1	⑤60歳代で24本以上自分の歯を有する人の割合	44.3%	50%以上	44.5%	B2	⑥定期的な歯科健診を受診する人の割合	44.8%	60%以上	49.9%	B1	⑦歯間部清掃用具を使用する人の割合					40歳代	24.3%	50%以上	22.3%	B2	50歳代	24.9%	50%以上	36.0%	B1	<ul style="list-style-type: none"> 身長と体重から算出されるBMIでは、性・年代別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「普通体重」の割合が低く、「肥満（1度）」「肥満（2度）」の割合が高くなっています。また、女性では、70歳以上を除き、年代が上がるほど「肥満（1度）」の割合が高くなる傾向がみられます。女性の30歳代で「低体重（やせ）」の割合が高く、2割を超えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正体重を維持している人（BMIが18.5以上から25未満）の割合は、策定当初値と比べ、改善しているものの、男性の50歳代で「肥満」（BMI：25.0以上）の割合が高くなっており、女性の30歳代では「やせ」（BMI：18.5未満）の割合が高くなっています。中年男性の肥満対策が必要です。また、思春期から青年期の女性に瘦身志向がうかがえることから、適正体重の正しい認識をもつことを促すことが必要です。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																																					
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																																																							
①適正体重を維持している人の割合	69.6%	75%以上	72.3%	B1																																																																						
②毎年健康診査・定期健康診断を受けている人の割合																																																																										
成人男性	60.9%	75%以上	64.4%	B1																																																																						
成人女性	44.2%	75%以上	51.7%	B1																																																																						
③特定健康診査・特定保健指導を知っている人の割合	51.4%	80%以上	61.2%	B1																																																																						
④がん検診を受けている人の割合																																																																										
	28.5%	50%以上	39.3%	B1																																																																						
⑤60歳代で24本以上自分の歯を有する人の割合	44.3%	50%以上	44.5%	B2																																																																						
⑥定期的な歯科健診を受診する人の割合	44.8%	60%以上	49.9%	B1																																																																						
⑦歯間部清掃用具を使用する人の割合																																																																										
40歳代	24.3%	50%以上	22.3%	B2																																																																						
50歳代	24.9%	50%以上	36.0%	B1																																																																						
<p>【施策の方向】 メタボリックに着目した生活習慣病予防の普及・啓発 ・特定健康診査・特定保健指導実施計画に基づき、メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防の普及・啓発を図ります。</p> <p>がん検診と事後指導の充実 ・がんの早期発見のため、受けやすいがん検診の体制づくりを行います。また、乳がんの自己検診法の普及と、マンモグラフィ併用検診の普及・啓発を図ります。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>⑤60歳代で24本以上自分の歯を有する人の割合</td> <td>44.3%</td> <td>50%以上</td> <td>44.5%</td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>⑥定期的な歯科健診を受診する人の割合</td> <td>44.8%</td> <td>60%以上</td> <td>49.9%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>⑦歯間部清掃用具を使用する人の割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>40歳代</td> <td>24.3%</td> <td>50%以上</td> <td>22.3%</td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td>50歳代</td> <td>24.9%</td> <td>50%以上</td> <td>36.0%</td> <td>B1</td> </tr> </tbody> </table>	⑤60歳代で24本以上自分の歯を有する人の割合	44.3%	50%以上	44.5%	B2	⑥定期的な歯科健診を受診する人の割合	44.8%	60%以上	49.9%	B1	⑦歯間部清掃用具を使用する人の割合					40歳代	24.3%	50%以上	22.3%	B2	50歳代	24.9%	50%以上	36.0%	B1	<ul style="list-style-type: none"> 「特定健康診査・特定保健指導」を知っているかについて、「知らない」の割合が35.5%と最も高くなっています。 前回調査と比較すると、「言葉は聞いたことがある」の割合が7.1ポイント増加しています。 健康診査を定期的に受けているかについて、「必ず受けている」の割合が56.5%と最も高く、次いで「受けたり受けなかったりする」の割合が19.3%、「受けていない」の割合が16.5%となっています。 前回調査と比較すると、「必ず受けている」の割合が6.2ポイント増加しています。一方、「受けていない」の割合が7.7ポイント減少しています。 性・年代別で見ると、他に比べ、男性の40歳代、50歳代で「必ず受けている」の割合が高く、7割を超えています。一方、男性の20歳代、女性の30歳代で「受けていない」の割合が高く、3割を超えています。 現在、ご自分の歯は何本あるかについて、「24本以上」の割合が51.9%と最も高く、次いで「20～23本」の割合が18.8%、「0～10本」の割合が14.5%となっています。 歯ブラシの他に歯間部清掃用具（糸ようじ、デンタルフロス、歯間ブラシなど）を使用しているかについて、「使用していない」の割合が42.5%と最も高く、次いで「ほぼ毎日使用している」の割合が30.4%、「1週間に数回使用している」の割合が13.4%となっています。 定期的（1年間に1回以上）に歯科健診を受けているかについて、「はい」の割合が49.9%、「いいえ」の割合が49.0%となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導について、関心の高い群はすでに利用している傾向にあるため、利用勧奨を行い、関心のない、または低い群への利用者増加を促す必要がある。 市民の健康に関する相談窓口として、保健センターや芦屋病院があることを周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年健康診査・定期健康診断を受けている人の割合は、策定当初値と比べ、増加しているものの、目標達成に至っていません。さらなる、未受診者への受診勧奨を行うとともに、健診の受けやすい体制づくりが必要です。 今年度に策定する第2期特定健診・特定保健指導実施計画に基づき、未受診者対策や効率のよい保健指導の実施に取り組んでいく必要があります。 特定健康診査・特定保健指導を知っている人の割合についても、策定当初値と比べ、増加していることから、関心が低い人への特定健診・特定保健指導の利用者増加を促す必要があります。 がん検診を受けている人の割合は、策定当初値と比べ、増加しています。国の健康日本21（第2次）では、平成28年度に40%としており、現時点で概ね目標を達成しています。今後は、継続受診を促進するとともに、未受診者への受診勧奨を行うため、健診の受けやすい体制づくりが必要です。 主要な死亡原因であるがんと循環器疾患に加え、重大な合併症を引き起こす恐れのある糖尿病や、死亡原因として急速に増加すると予測されるCOPDへの対策が必要です。 歯周病発症の低年齢化の傾向があることから、むし歯だけでなく、歯肉や口腔機能への意識を持つことが必要です。 歯の健康を保つためにも、定期的な歯科健診の結果をうけ、早めの治療を行うことが必要です。 																																													
⑤60歳代で24本以上自分の歯を有する人の割合	44.3%	50%以上	44.5%	B2																																																																						
⑥定期的な歯科健診を受診する人の割合	44.8%	60%以上	49.9%	B1																																																																						
⑦歯間部清掃用具を使用する人の割合																																																																										
40歳代	24.3%	50%以上	22.3%	B2																																																																						
50歳代	24.9%	50%以上	36.0%	B1																																																																						

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																																																																			
(11) 健康を維持する食習慣の確立と実践	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日3度の食事を摂ります。 ・食事の時間を家族と一緒に楽しめます。 ・食事はよくかんで食べます。 ・食卓に「主食・主菜・副菜」をそろえます。 ・適正体重を保つための食事を心がけます。 ・食に関わる人やものに感謝の気持ちを持つよう努めます。 <p>【施策の方向】 妊娠期の望ましい食習慣や知識の普及・啓発 ・教室や調理実習を通じて、妊娠期における正しい食習慣を身につけ、母子の健康増進を図ります。また、食事バランスガイドの普及・啓発に努めます。</p> <p>五感（味覚・視覚・聴覚・臭覚・触覚）を使った食育の取り組み ・食べて味わうといった五感を使った体験を取り入れ、食べることが楽しいと感じることもを増やしていきます。（一部抜粋）</p> <p>こどもの食生活に関する学習機会や情報の提供と、生きた教材としての給食の充実 ・食育に関する学習会や研修会を開催し、食育の必要性や目的・目標について共通認識を深めることに努めます。（一部抜粋）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標</th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th rowspan="2">本調査の結果</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①朝食を食べる人の割合</td> </tr> <tr> <td>幼児</td> <td>93.3%</td> <td>100%以上</td> <td>95.9%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>83.8%</td> <td>100%以上</td> <td>89.3%</td> <td>B1</td> </tr> <tr> <td colspan="5">②食事バランスガイドを知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>幼児</td> <td>72.5%</td> <td>90%以上</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>66.1%</td> <td>70%以上</td> <td>70.1%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td colspan="5">③こどもに合った食事内容を知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>81.6%</td> <td>90%以上</td> <td>81.1%</td> <td>B2</td> </tr> <tr> <td colspan="5">④野菜の1日の摂取量を知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>38.4%</td> <td>50%以上</td> <td>34.5%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td colspan="5">⑤メタボリックシンドロームを知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>82.8%</td> <td>90%以上</td> <td>83.1%</td> <td>B2</td> </tr> </tbody> </table>	目標	現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	平成20年調査	平成24年目標	①朝食を食べる人の割合					幼児	93.3%	100%以上	95.9%	B1	成人	83.8%	100%以上	89.3%	B1	②食事バランスガイドを知っている人の割合					幼児	72.5%	90%以上	—	—	成人	66.1%	70%以上	70.1%	A	③こどもに合った食事内容を知っている人の割合						81.6%	90%以上	81.1%	B2	④野菜の1日の摂取量を知っている人の割合						38.4%	50%以上	34.5%	C	⑤メタボリックシンドロームを知っている人の割合						82.8%	90%以上	83.1%	B2	<p>【健診時親子調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは普段朝食を食べますかについて、「毎日食べる」の割合が、90.5%となっており、約1割の親が欠食者となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティークッキングは、参加人数は低迷している。実績を増やし更なる妊娠時期の健康教育の充実が課題。 ・夫も参加できる教室は開催希望が多い。夫の育児参加を促し、愛着関係の重要性についての知識の普及を継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の朝食の欠食者が多いことから、朝食をはじめとした食生活の大切さを保護者に伝えることが必要です。 ・妊娠期の望ましい食習慣や知識を普及することを目的とした各種教室・情報提供等の参加者が減少傾向にあることから、参加しやすい実施方法を検討する必要があります。
	目標	現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																																																																			
平成20年調査		平成24年目標																																																																						
①朝食を食べる人の割合																																																																								
幼児	93.3%	100%以上	95.9%	B1																																																																				
成人	83.8%	100%以上	89.3%	B1																																																																				
②食事バランスガイドを知っている人の割合																																																																								
幼児	72.5%	90%以上	—	—																																																																				
成人	66.1%	70%以上	70.1%	A																																																																				
③こどもに合った食事内容を知っている人の割合																																																																								
	81.6%	90%以上	81.1%	B2																																																																				
④野菜の1日の摂取量を知っている人の割合																																																																								
	38.4%	50%以上	34.5%	C																																																																				
⑤メタボリックシンドロームを知っている人の割合																																																																								
	82.8%	90%以上	83.1%	B2																																																																				
<p>【施策の方向】 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）予防のための取り組み ・各種イベント、リーフレットなどを通じて啓発し市民が自主的に個人に応じた取り組みができるようメタボリックシンドローム予防のための普及啓発に取り組めます。（一部抜粋）</p> <p>食事バランスガイドの普及・啓発 ・食に関する教室や相談・指導時等に積極的に食事バランスガイドを使用して理解が得られるよう普及・啓発に努めます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べているかについて、「週4～6日は食べる」と「週2～3日は食べる」と「まったく食べない」をあわせた“朝食欠食者”の割合は10.2%となっています。 ・自分に適した食事内容や量を考えた食事ができているかについて、「はい」の割合が51.8%となっています。 ・野菜を一日に350g（両手山盛り一杯）以上食べているかについて、「ほぼ毎日食べている」の割合が34.5%となっています。 ・「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」を知っているかについて、「言葉も意味も知っている」の割合が83.1%と最も高くなっています。 ・「食事バランスガイド」を知っているかについて、「内容はあまり知らないが、聞いたたり見たたりしたことがある」の割合が53.1%と最も高く、次いで「はじめて聞いた」の割合が28.3%、「内容まで知っている」の割合が17.0%となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種教室に対し、特に参加してほしい壮年期に対し、参加を促す必要がある。 ・個別健康教育では、参加者の効果を6ヶ月間しか追っていない為、その後の教室参加の効果を確認できていない。 ・母子の栄養相談が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べる人の割合は、策定当初値の現状値を上回っているものの、目標達成に至っておらず、働き盛りの20歳代、30歳代の男女ともに、朝食の欠食者が高くなっています。朝食の欠食率を下げる取り組みが必要です。 ・野菜の1日の摂取量を知っている人の割合は、策定当初値に比べ、悪化していることから、各種教室や調理実習、試食などの講習会時に野菜の摂取量増加の普及・啓発を行うとともに、広く一般に対しても、野菜の摂り方の工夫など、情報提供していくことが必要です。 ・食事バランスガイドを知っている人の割合は、目標達成しており、今後もツールの一つとして活用していくことが必要です。 ・生活習慣を見直すことを目的とした各種教室・情報提供等の参加者が減少傾向にあることから、参加しやすい実施方法を検討する必要があります。 																																																																				

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが、継続実施できた C：事業内容を縮小した）

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																									
(12) 食文化の継承	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭において、伝統的な行事食などについて教わる機会をつくります。 地域での市民の交流やNPO活動などにより、食文化の継承を推進します。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①行事食を味わう人の割合</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>82.1%</td> <td>100%以上</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>84.0%</td> <td>100%以上</td> <td>80.1%</td> <td>C</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①行事食を味わう人の割合					児童	82.1%	100%以上	—	—	成人	84.0%	100%以上	80.1%	C	<ul style="list-style-type: none"> 行事食を食べているかについて、「必ず食べている」と「時々食べている」をあわせた“食べている人”の割合が80.1%、「あまり食べていない」と「まったく食べていない」をあわせた“食べていない人”の割合が19.0%となっています。 性・年代別でみると、他に比べ、女性の70歳以上で「必ず食べている」の割合が高く、約4割となっています。また、男性の60歳代、70歳以上で「まったく食べていない」の割合が高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々が気軽に参加できる場を作ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 共食の機会が持ちにくい現代だからこそ、人が集まる機会を意識して楽しく食事をする場をつくり、食や食事の時間を大切にする必要があります。今後も引き続き、学校給食をとおして、こどもが行事食を味わう機会を増やしていくとともに、地域・家庭においても行事食を味わい、伝えていくことが必要です。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																									
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																											
①行事食を味わう人の割合																														
児童	82.1%	100%以上	—	—																										
成人	84.0%	100%以上	80.1%	C																										
	<p>【施策の方向】</p> <p>行事食を伝える取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食メニューに、旬の食材を使い、伝統ある行事食などを取り入れて、食に関する指導を行う上での教材として活用していきます。保護者に対して「給食だより」等を通じて情報提供を行います。 																													

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																														
(13) 食の選択力を養う	<p>【家庭や地域の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品の表示に関する知識や新鮮な食品の選び方などについての知識を高めます。 食品を購入する際は、原材料の産地や食品表示を確認するなどして安全安心な食品を購入するよう努めます。 食中毒予防のため正しい手洗いを行います。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①ひょうご“食の健康”運動に取り組む食の健康協力店の店舗数</td> </tr> <tr> <td></td> <td>78店舗 (平成20年12月末現在)</td> <td>90店舗</td> <td>113店舗 (平成24年3月現在)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td colspan="5">②学校給食における県産品利用割合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>29.6%</td> <td>40%以上</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①ひょうご“食の健康”運動に取り組む食の健康協力店の店舗数						78店舗 (平成20年12月末現在)	90店舗	113店舗 (平成24年3月現在)	A	②学校給食における県産品利用割合						29.6%	40%以上	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性に関してどの程度知識を持っているかについて、「持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」をあわせた“知識を持っていると思う人”の割合が71.8%、「あまり持っていないと思う」と「まったく持っていないと思う」をあわせた“知識を持っていないと思う人”の割合が27.1%となっています。 前回調査と比較すると、“知識を持っていないと思う人”の割合が9.4ポイント増加しています。 性・年代別でみると、他に比べ、女性では年代が上がるほど、「持っていると思う」の割合が高くなる傾向がみられます。また、男性の20歳代、30歳代で“知識を持っていないと思う人”の割合が高く、5割を超えています。 外食をどのくらいの頻度で利用しているかについて、「月1～2回程度」の割合が37.6%と最も高くなっています。 市販のお弁当・惣菜・調理パン・調理済み冷凍食品などをどのくらいの頻度で利用しているかについて、「週1回程度」の割合が36.5%と最も高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に対する「食の健康協力店」のPR強化を図る必要があるとともに、参画店舗へのフォローアップが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層では、食品の安全性に関する知識が不足していることがわかります。近年の食の安全に関するニュースなど情報量が多く問題が多様化しており、食の安全性に対する自信がなくなっているのではないかとかがわれます。（中国産野菜における残留農薬問題、BSE、汚染米、など） 外食や中食の利用の増加により食の外部化が進んでいることから、食品の表示に関する知識や新鮮な食品の選び方などについて情報提供することが必要です。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																														
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																																
①ひょうご“食の健康”運動に取り組む食の健康協力店の店舗数																																			
	78店舗 (平成20年12月末現在)	90店舗	113店舗 (平成24年3月現在)	A																															
②学校給食における県産品利用割合																																			
	29.6%	40%以上	—	—																															
	<p>【施策の方向】</p> <p>災害時の非常用食料備蓄等の必要性の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが、災害が起きた場合等の食生活を意識し、日頃から危機管理をしておくよう、ホームページ等を通じて非常用食料備蓄等に向けた啓発を行います。 		<ul style="list-style-type: none"> 家庭で災害時に備え、非常用食料などを備蓄しているかについて、「はい」の割合が36.0%、「いいえ」の割合が63.2%となっています。 前回調査と比較すると、「はい」の割合が9.3ポイント増加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉フェア等を通じて、災害時の非常用食料等備蓄に向けた周知を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常用食料の備蓄を行っている人が増加しており、東日本大震災が影響していることがうかがわれます。今後一層、各種媒体を使って、災害時の非常用食料等備蓄に向けた周知を図る必要があります。 																														

芦屋市健康増進・食育推進計画 次期計画に向けた課題・着眼点（論点整理表）

	現行計画の主な取り組み	現行計画の目標値の評価	市民アンケート調査からみられる現状	事業評価からみられる現状・課題	次期計画に向けた課題・着眼点																									
<p>(14) 食育推進の取り組み</p>	<p>【家庭や地域の取り組み】 ・料理講習会，食の研修会などへ積極的に参加します。 ・市民農園などを積極的に活用します。 ・季節の旬の食材を用いた料理をするよう心がけます。 ・食べ残しが増えないように買物，料理の仕方を工夫します。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">現行計画書掲載値</th> <th>本調査の結果</th> <th>評価</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>平成20年調査</th> <th>平成24年目標</th> <th>平成24年調査</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">①食育という言葉も意味も知っている人の割合</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>20.9%</td> <td>70%以上</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>49.3%</td> <td>70%以上</td> <td>48.5%</td> <td>B2</td> </tr> </tbody> </table>		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価	目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査		①食育という言葉も意味も知っている人の割合					児童	20.9%	70%以上	—	—	成人	49.3%	70%以上	48.5%	B2	<p>市民アンケート調査からみられる現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育」という言葉を知っていたかについて、「言葉も意味も知っていた」の割合が48.5%と最も高く，次いで「言葉は知っているが意味は知らなかった」の割合が32.6%，「言葉も意味も知らなかった」の割合が16.9%となっています。 ・性・年代別でみると，他に比べ，女性の30歳代～50歳代で「言葉も意味も知っていた」の割合が高く，6割を超えています。 ・「食育」に関心があるかについて，「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた「関心がある人」の割合が69.5%，「あまり関心がない」と「まったく関心がない」をあわせた「関心がない人」の割合が28.7%となっています。 ・食育や健康づくりに関する知識や情報を主にどのようなところから得ていますかについて，「テレビ」の割合が68.5%と最も高く，次いで「新聞」の割合が56.3%，「家族や友人」の割合が43.2%となっています。 ・性・年代別でみると，他に比べ，男性の20歳代～50歳代，女性の20歳代～40歳代で「インターネット」の割合が高く，3割を超えています。 	<p>事業評価からみられる現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェア等において情報を得られなかった方々にも伝えられるようにすることが重要である。 	<p>次期計画に向けた課題・着眼点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育という言葉も意味も知っている人の割合が，成人において，減少しているものの，食育に関心がある人の割合が約7割と高いことから，食育を自分の問題として認識し，実践することができるよう情報提供することが必要です。 ・個人の食育の実践を進めるために，関係者がさらに連携を深め，日々の生活の中で実践できる環境づくりを整備する必要があります。 ・食育や健康づくりに関する知識や情報について，年代別に情報入手手段に相違があることから，各種媒体を使った情報発信に努めていくことが必要です。
		現行計画書掲載値		本調査の結果	評価																									
目標	平成20年調査	平成24年目標	平成24年調査																											
①食育という言葉も意味も知っている人の割合																														
児童	20.9%	70%以上	—	—																										
成人	49.3%	70%以上	48.5%	B2																										
<p>【施策の方向】 食育月間における取り組みの促進 ・毎月19日の「食育の日」や6月の「食育月間」において，食育推進運動を重点的かつ効果的に実施するため，関係機関や団体や食の健康協力店等に啓発ポスターの配付，保健センターに食育コーナーを設置するなど，市民への食育の周知と定着を図ります。</p> <p>関係機関相互の連携 ・「芦屋市食育推進計画」に基づいた「食育」を推進していくため，本市はもとより，教育・保育の関係団体，食品の加工・販売等の事業者，さらには様々な地域団体，NPO・ボランティア等，多様かつ多数の各種関係機関・団体がそれぞれの立場から取り組むとともに，相互に連携・協力することができるようネットワークづくりを行います。</p> <p>食に関する指導体制の確立 ・小学校では，学校教育目標に食指導の必要性を明確化するとともに，教職員の食育への理解を推進し，学校全体での取り組みを行っていきます。（一部抜粋）</p> <p>学校給食展の開催 ・学校と家庭・地域社会が連携を深めることにより，児童の健全な心身の発達に資する食生活を探求するために開催します。（一部抜粋）</p>																														

※評価ランク（A：方向性どおり実施できた B：方向性どおり実施できなかったが，継続実施できた C：事業内容を縮小した）